

NIE
実践校から
〈2〉

関大北陽中学校

「記者の仕事で一番うれしかったことは？」一。関大北陽中学校（大阪市東淀川区）では新年度から2年生で、総合学習の時間を使ったNIE授業をスタート。1回目となった4月24日には、本紙編集企画室の藤浦淳・企画担当部長が約30年の記者経験を話し、生徒たちの質問に答えた。

授業では、新聞記事や写真に込められた記者のメッセージを紹介したり、生活ニュースから事故、災害の取材経験などをもとに仕事の面白さ、大変さを話したりした。その後事前に生徒から寄せられていた質問にこたえた。生徒からは「新聞とテレビニュースの違いはなに」、「どんな視点から読めばいいのか」、「どこから情報を得ているのか」などの質問が寄せられて、NIE担当の中野裕文教諭が読み上げる対話形式で授業を進めた。



生徒からの質問について対話する中野教諭（左）と本紙・藤浦部長（関大北陽中学校（青山周平さん撮影）

「記者ってどんな仕事？」興味津々

また志望する生徒2人が一眼レフカメラを持って、授業風景の写真撮影にチャレンジ。藤浦部長から簡単なコツなどを教わって、熱心に撮影していた。

中野教諭は「普段新聞をほとんど読まない生徒たちも真剣な表情で聞いていて、新聞への関心が高いことがわかった」と話

していた。

同校では今後年間を前期と後期に分けてゴールを設定。取材と新聞作り、プレゼンやディスカッションを取り入れながら「対話・交流・連携・発信」を意識したカリキュラムで、主体的で深い学びを実践していくという。